

From Woman to Women

今号の話題

- 私からあなたへ — 目からウロコが落ちた時
 - もう頑張らなくていいんだ
 - つかつかしがつい私のウロコ
 - センソウ・クミアイ・シンロン
- おひめさまへ — エビア展チェック
- 天竺に人權を
- ピースボート'90
- お知らせ
- コーヒープレイク

1990.5.31

私からあなたへ

―目からウロコが落ちた時―

「私であること」にこだわり続けて〇〇年。これまで私についてツラツラ考えみると、他人様には言えないような恥ずかしいことや、羨ましいには語れなかったことが今ではすっかり笑い話になっていたりことや、重すぎるため自分の中にひっそりしまいいんびいたことなど、いろんなことがありました。ある日「ああ、そうだったのか」と気が付き、新しい自分を発見し感動したこと、皆さん身に覚えがありますよね。そして、少しずつ自分自身に対する信頼と自信を感じられるようになったことも。今号では「目からウロコが落ちた時」を特集しました。同じテーママニパト正の企画もあります。投稿もお待ちしております。

もう頑張りなくていいんだ

N・M

子どもなんてたいてい好きでもないくせにこの

仕事についてもう十五年も過ぎてしまった。考えてみれば、しかし、私の子どもやぐらし論は年を追うごとに子どもおもしろ論に変わってきている。今では学校の教員ってなんておもしろい仕事だろうと思っただけ子どもにはだらうなくなっている自分に気がつく。

いつのころからこんなふうになつたのだろうか。少なくとも、目をフリ上げて子どもをどう見たらいいかという新卒のころの私や、この子をなんとかしようと思死で頑張り続けた良心的な教師面していたころの私とはもうずいぶんイメージがかけ離れてしまった。こんな転機は一日でおとずれるわけもなく、長い年月をかけて気がついてみたら自分が変わっていたというのが大方の筋だが、私の場合は明らかに一つの契機があった。

それは五年前のある女の子との出会いだった。一年生に新しく入学してきた彼女は軽い知恵おくれのハンディを背負って私のクラスへ入ってきた。障害児教育について頭でっかちになつていた私はそれこそ、彼女に学力をつけさせなければ、彼女を中心とした学級をつくらねば、という思いだけ

が先行し、教師の思いだけでクラスづくりを進めていった。もちろん当時はそんな自分に気づく余裕すらなく、ただひたすら子ども達のために頑張る教師だった。

自分の名前も書けるようになった、かな文字も読めるようになった、クラスの子とも達も彼女のことも大事に思っている、そんなひとりよがりな思い上がった気持ちで、私はその年度の日教組全国教育研究集会（全国教研）に自分の実践レポートを持って行った。その分科会は唯一、日共のせめぎ合いで内容において厳しい問いをしいられ、いるところであり、五日間におよぶ討議にむけて、私はほとんど眠ることなく仲間との討論、発表準備に追われた。

全国から集まった仲間たちの発表や討論を聞いたり、また、自分も発表したり、さらに九州の仲間と討論したりした五日間の中で、私は大変大事なことが見えてきた。それは自分自身の姿である。いかにこれまで自分は頑張ってきたことが、よくしように思っていたことが実はクラスの子とも達を追いつめ、苦しめていたことに今やっ

と気づいた。子どもは変わったのではない、必死に頑張る担任に合わせるだけ、今、一番変わらなければならぬのは教師である自分だ。目が覚める思いだった。「教師はもう頑張らなくていいんだ。」と思ったとたん、肩の力がとれ、楽になる自分かわかった。全国教研の最終日、私はそれまで気負っていた自分から、自然な気持ちで子ども達に接することができる楽な自分に変わったことを感じ、そのことを素直に発表できた。

まるで生まれ変わったかのような新鮮な気持ちで長崎に帰ってきた私は、それまで当然のこととして受けとめていた子ども達の一つ一つの行為が心に深くしみこみ、自分でもびっくりするほどやさしい気持ちになっていった。「教師が変わらなければ子どもは変わらなれない」というのは同和教育の常套句だが、そのことを頭ではなく身体で強く感じさせてくれた子ども達に深く感謝した。

子どもとなんとか良くしようと考えている間は子どもは決して良くなんかならない。たかが教師にできることはせいぜいその子を理解することぐ

らいだ。いや、それ以上のことを教師はしてはいけないのではないだろうか。あの大きな契機となつた全国教研から五年がたつた。この間にもいろいろな子ども達に出会い、様々なできごとがあつたが、少なくとももう子どもをなんとかしようという教師根性からは自由になれたような気がする。

子どもを理解する——それは「子どものいい面を見つけて認めてやる」などという次元の低いものとは違うような気がする。いいも悪いもない、すべてをひっくるめて、今のままのあなたが好きよ、と子どもに思いを寄せられるかどうかか問われたいるような気がする。

私は大事なことを発見した。子どものあるがままを好きになれるかどうかは自分自身のあるがままの姿を受け入れられるかどうかに、特に女の場合はかかっているのではないか。少なくとも私自身はそうだ。自分ほだめな人間だと思ひこんでいた時は、クラスの子どものころか我が子さえかわいと思えず、一人悩んでいた。しかし、この私でいいんだ、私は私だと思えるようになったころから我が子やクラスの子どもの達のこと大好きに

なつてきた。こんな簡単なことがこの年になるまでわからなかつたなんて、なんて私は回り道と——たんだらうと思うこともあるが、暗いトンネルが長く続いたからこそあの日の出会いを私は自分のものにできたのだと思う。

このまま私は教師の權威を削ぎ落とす——続けていけば今の自分と対極の位置に自分を置く日があるかもしれない。頑張らず、何もせず、ただ子どもを眺めているだけの教師の存在を許すほど、今の教育の現場は甘くない。子どもを理解するだけという私のささやかな思いなどなんの力も發揮できさない。それでももうしばらくは教師であることに居直り続けてみようと思う。どんな言葉を並べたてたとしても子どもにとつては権力者である自分を忘れないために私は常に「たかが教師」という言葉を用意している。たかが教師だからこそ毎日気楽に子ども達とかかわっていけるのだらう。明日はどんなおもしろいことがあるかしらん。



なかなかしぶとい私のウロコ

I・J

目からウロコが落ちたなどというところが、私の人生の中であったのだろうかと思う。あいも変らず「わかっちゃいるけど」をくり返す。だけどその「わかっちゃいる」ところをもうそろそろ、「わかった」と言おうと思う。

私にとって男というものは父や兄を除けば、いや除くことはできないかもしれない、とにかく男とは信用ならぬものだった。とかく男というものは……という言葉でしか男を見れなかった。だから若い頃、周囲にカップルが次々と生まれるとちよつとしたきっかけが主で男女間の愛と信頼など考えられず、どのカップルも、似たりよったりで、たいした中味とも思えなかった。

もし変わったと言うなら、きつとそこだと思う。

男なんてちよつとも信用してなかったが、同時に女も男とのことにおいては信用ならない存在で、女同士の友情も男がはいると一瞬のうちに壊れて全くいいかげんなもんだと腹を立てていた。そもそ

も信じてないからうまくいく筈もなく、破綻の連続の半生だった。しかし人として信頼できる男に会うことができた。

人を信頼できるということはいい事だと思う。男総体への不信も、男に對する面での女への不満もない。男女の友情などという不安定な関係には何の興味もないが、女同士の友情については少し言いたい気もする。

女同士の親しき仲のよさにも限りがあつて、男と女の親密度にはかなわない部分があつて、まあ結局はそこに落ちつくのだなあという感じ。しかも、それではあんまり悔しいと思いませんか？ネエ

センソウ・クミアイ・シホンロン

N・Y

私が物心ついた時（4く5ギ）には戦争の中でした。外で楽しく遊んでいると空襲警報が鳴り、急いで防空壕に駆け込むという状況で、空襲警報が鳴ると暗れている空も曇っているように感じ、

恐怖、不安、窮屈な思いをし、早く終らないかな
あとばかり思っていました。ある日防空壕の入口
のところまで飛行機を見上げてみると見張りの人か
ら「白い服を着ていて外に出るな、せっかくの金
儲けが水のアフになるじゃないかし」とものすこい
剣幕で怒られました。私はびっくりにしたのですが
少しネズミ色っぽい服だったので「白色じゃない
のにどうしてあんなにひどく怒るんだろう」とケ
し反発した気持ちになりました。そしてあの飛行機
はきつと悪い事をしにいつてるんだろうと……。
白い服がどんな意味を持つているのか、随分あと
になってテレビ等で戦争体験を聞いて白い色は
上空からよく見えて敵め的にされるという事を知
りました。「戦争が終った」と近所の人達が話し
ているのを聞いて子供心にホッとしたのを覚えて
います。最近でも戦争のニュースとか映画で子供
が出てくると胸が痛みますが、決して有色人種な
のです。

以来ずつとあの暗いじめな体験は一体なんだ
ったんだろうと……健全な青年を戦争に駆り立て
る、それらを権力というのであろうかと。私の胸

の中にいつも悶々として残っていました。きつと
権力というものはまだ潜んでいて、それが頭を持
ち上げ又戦争が起きるかも知れない。その時はし
かし命をかけて阻止しよう。これが私が生きる原
点だと胸の奥にいつもあります。しかし実際には
はつきり解るようになってからは遅いのであって
日々、の闘いが大切だと思っています。

看護婦になつて労働条件の改善（ニ・八斗争）
を求める動きがあり、私も誘われるままに早起き
をして集会に参加していたので、女は従順でな
いと嫁の貰い手がないと言つて育てられた私は、
そういう要求が出来るのだろうかと思いつつ、確
かに夜勤は辛いしと思つていました。病院側は二
・八斗争の要求へ夜勤は二人で、月に八回以内ご
を認め、そういう方向で動き出した矢先、解雇問
題が起きたのです。戦後の就職難や貧乏を思い出
し私は必死でした。人の生活権を奪う、これが権
力だと思いました。

そうして労働組合が結成され、ねばり強い闘い
の結果、解雇は撤回されました。団結して斗えば
権力も倒す事ができる事を確信し私の生き方も変

りました。労働組合とは初めて聞き、体験し、活動をやつていく中でマルクスの「資本論」の学習会があるという事で私も出席しました。仕事の都合で思うように出席できなかったのですが、働く者が有利になるように経済を分析したものと記憶しているのですが……そうであればいろいろ要求して納得のいく条件で働こうと団体交渉での発言も出来るようになりました。しかし五年しか続きませんでした。

現在日本は世界一経済大国といわれるようになって、日本経済は世界を駆けめぐっています。しかしその為には切り捨てられた人達がいる事を忘れてはいけません。又国内では長時間労働、過労死が問題になっていられるのも事実です。一方でお金を使う為に時間を浪費する人もいれば、一方でお金を稼ぐ為に休日もなく働く、この不平等さが日本の現実でしょう。私は平等で競争がなければ争い等は起らないと思うのですが単純かな。



ウォッチング



— 植樹祭の前々日、天皇、皇后が長崎入りした五月十八日の、長崎市での様子 —

- ▣ 長崎大学前の歩道橋に、電車に乗るために上がろうとした瞬間、私服警官と制服の警官がどこからかパツと現われて止められた。言葉で抵抗したかダメだった。(天皇の車が通る頃)
 - ▣ 長崎駅から列車に乗るつむりの人が、駅前の高塚広場に通じる歩道橋に上がろうとして、私服警官から止められ列車に間に合わなかった。6
 - ▣ (天皇の車が通る頃)
 - ▣ 天皇が宿泊したホテルニュー長崎の建物の中にある銀行の行員は、家族のことまで調べられた。
 - ▣ 長崎大学構内の裏門側の塀沿いの樹木は、高さ一メートルぐらいの所でバッサリ切られるか、下の方の枝払いをされるかのどちらかだった。
 - ▣ 当日の長崎大学構内は、私服警官がウヨウヨ。
 - ▣ ホテルニュー長崎地階のおみやげ品店は、買
- い客者はいなくて私服警官と店員さんだけ。

あなたユ一モア度多ユツ

(番号に〇をつける)

1. 他人の失敗を見て、本気で笑うことがある。
2. 本気で笑った他人の失敗を、自分も経験した。
3. その自分の失敗を心から笑い飛ばせる。
4. 自分のことが話題にされるのが好きだ。
5. 自分のドジ話を平気で他人に話せる。
6. どちらかという男好きへ女好きである。
7. 途中から他人の会話に入ることができる。
8. 他人から叱られても、すぐ忘れられる。
9. 「近頃の若い者は…」といったことがない。
10. 遊びの誘いはことわれないほうだ。
11. 風呂に入ると、つい出てくる鼻歌がある。
12. その歌は演歌ではない。
13. 持ち合わせがなくなるまで遊んだ事がある。
14. 今、自分の財布の中身がはっきりとわかる。
15. これだけは他人に言えないという恥ずかしい過去がある。
16. 「ここだけの話」というのが得意である。
17. トイレのあと、紙がなかったことがある。

さあ、あなたのユ一モア度を診断してみましよう。番号について〇の数はいくつでしたか？

1〜2 あなたは朴念仁です。今どきあなたのおうな人はめずらしい。化石と呼ばれるのでもいいかもしません。

3〜8 あなたは堅物です。あなたは普通のつもりでも、意外にも他人からはそう思われれています。頭を少しやわらかくしたら？

9〜13 あなたはいい人です。女性の場合、デートに誘われたら断わりきれないタイプ。あなたには「よっ！ 人気者」です。酒の席に誘われること多し。ただし個人的なお誘いかどうかは全く別のこと。

14〜17 あなたはコメディアンです。もう何も言うことはありません。

いかがでしたか。かっかりしたり、得意になつたりする必要はありません。朴念仁でもコメディアンでもけっこう。あなたらしくあなたが魅かれるはずですから。私？ もちろん「堅物」よ！

天皇に人権を

先日の盧泰愚韓国大統領訪日の前に、宮中晩さん会での天皇の「お言葉」が問題になった。韓国側の要求と日本政府の見解とは、あまりにも差がありすぎた。言葉の内容について、自民党のオエラ方はあめでもないこうでもない、もともと明らかに聞こえそうな理屈をつけて対応したが、昭和天皇の言葉の内容よりは少しはマシという程度であった。

この一連の「お言葉」騒動の間、テレビや新聞でゴトのナリエキを知るにつけ、不可解だった（あたり前といえはあたり前なのだが）のは、当の「お言葉」を述べる天皇ではなく、政府のオエラ方が顔を真赤にして怒ったり、蒼白になって失言を撤回したりして「お言葉」の内容を求めていることである。韓国政府は、天皇と政府に対して謝罪を求めているのに、天皇は憲法上政治的な発言はできない……とかなんとかいうことで、自民党のオエラ方がつくった原稿を読ませられたのである。普通なら、こんなに大事なことについて、

他人が作った原稿を読ませられるなんて考えられないことだ。天皇に「ここだけの話にしておくから、本当は何て言いたかったの？」と聞いてみたい。自民党は、変えたければその憲法でも、都令のいい所は必死で守ってみせた。

憲法で規定されている象徴としての天皇。ただしこの天皇制には、憲法にうたってある「人権」のカケラもない。人権を認められていない天皇。いつか真宗大谷派のお坊さんか言っていたけど、天皇制をなくすには、天皇に人権を保障し、憲法上の天皇制を空洞化していく以外にはないのかもかもしれない。

おすすめドレッシング

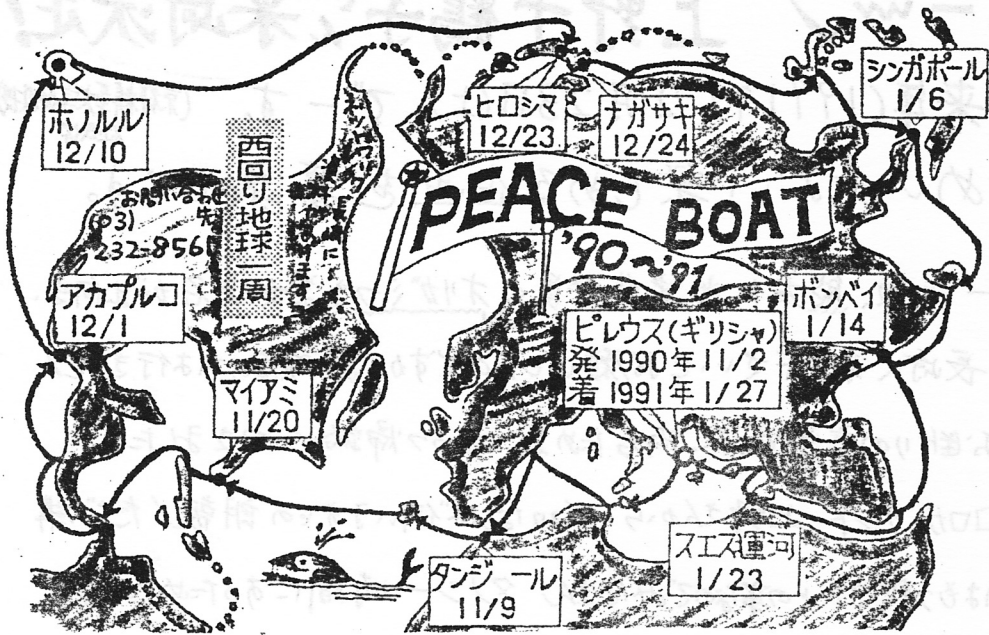
サラダオイル	150cc
うす酢(又は濃酢)	150cc
酢(又はりんご酢)	100cc
ゴマ(いたもの)	30g(60cc)
砂糖	40g(80cc)
玉ネギ	90g(中1/2個)
ニンニク	1片

- ◎ ミキサー 使用の場合
玉ネギとニンニクは、ざっと包丁を入れて、材料全部をミキサーにかけ
- ◎ ミキサー を使わない場合
玉ネギとニンニクは、すりおろし、エマはスリハキでよくする。材料全部を混ぜて器におくませる。

冷蔵庫の生野菜を探して食べたくなります。好みでアレンジして下さい。

(K)

ピースボート'90



ピースボート'90のアピールに辻元清美さんが長崎にやってきた。これまでに「過去の戦争を見つめ未来の平和を作ろう」と、ベトナム、カンボジア、中国、フィリピン、ソ連、サハリンなどアジアを中心に船をだしてきた。今回で10回目。

11月2日、ギリシャのピレウスを出発点に西回り地球一周(90日)をやろうという大胆不敵な企画は、なんと三年がかり。一ヶ月前に、やっと、ギリシャのエピロテイ社のオーナーとの直談判で、オセアノス号(一万四千トン)が7つの海を渡ることとなった。航海中の安全の問題や地球一周という無類の冒険に、船の賃し手がなく、船探しに向う毎日だったという。

「お尻に火がついたようになってしまおう」と本人が言うとおり、辻元さんはエネルギーシユ。小さな出逢いや縁を次の足がかりにし、つかり組み込み、世界中にネットワークを張りめぐらす技がこの企画の原動力のようだ。

自分の目と足で教動の世界を見てこようとすでに百五十人の参加申込みがある。

教師には又なれますが、この船には今乗らないと……仕事をやめて参加の人。留年のかっこいい理由にしようと思つてミと。ユニークな参加者の面々。船上プランも盛だくさん。

教動世界まるごと一周フルコース	99万24円~	90日間
西改新喫ニッポン船・コース		53日間
海のシルクロード・コース		37日間
アジア横断冬休み・コース		23日間
ニッポン発アジアで正月・コース		15日間
ホノルルマラソンお帰り・コース		16日間

ジャーゴン 上野千鶴子さん来崎決定!

来年(1991年)2月23日(土)です。(京都精華大学助教授) 社会学

めいっぱい楽しめる企画を募集します。

之一先頃、熊本に当編集委員のオリガミつき美女2名が出向き、ぜひ長崎に来て下さいとお願いしたのですが講演会には行きせんとのお断りの言葉でした。兩名ため息つき帰路につきました。

トコロガナシ、上野さんから3/3日ならば伺いますとの朗報!ただの講演会にはもう飽きたとの事なのでみなさん夕ノシー時間にあるために、アイデアをいっぱい出して下さい。言いたいことはほとんど本に書いておけることですので当日までなるべく読んできたいですね。
 「女遊び」「ミッドナイトコール」
 「スカートの下の劇場」
 「女という快楽」 e.t.c.
 (注) このオリガミは私がつけました、ネノタメ!

● 上野さんの著書紹介の原稿を書いて「女」という快樂になのに、快感などと書いてしまった。セックス談議をしながらだったから、ツイ、手がぬエ (J)

● 黒澤明の「夢」の一コマに、村あけの葬式祭りがあらわれる。葬式はめでたいもんじゃ。生まれて働いて死んでいく。ごくろうさん。そんなに楽しい葬式だったら、自分の着がとてお楽しみ。それまでのんびりと生きてみようか。(T)

● 私の職場の男の上司は、女性事務員を呼ぶのに「○子ちゃん」という。私はその課への人事異動の際「名字で呼んで下さい」と言っておいた。それから一年半。きょう「○子さん」と呼ばれイマナー気分。これもセクハラのひとつだ。ナメルンシヤナイ。今に見ていろ。(Y)



珈琲のばれい

発行者	長崎・女の会 「女の会通信」編集委員会	事務局	長崎市滑石1丁目4-1-601 栗山洋子軒 TEL 0958-56-7595	印刷	連帯 長船労組	No.	112
-----	------------------------	-----	--	----	------------	-----	-----